

---

# 原爆症認定集団訴訟を支援する会・長崎

ニュースNo. 23

2011年7月30日発行

長崎市岡町8-20被災協気付 電話095-844-0958  
原爆症認定集団訴訟を支援する会・長崎

---

## 「支援する会・長崎」解散総会を開催

7月23日(土)午前11時より、長崎市常磐町のホテルニュータンダで、「原爆症認定集団訴訟支援する会・長崎」の解散総会をおこないました。原告、弁護団、支援団体、会員、支援者で100名が参加しました。挨拶に立った谷口稜暉代表委員がこれまでの支援への感謝を述べ、続いて川原進原告団副団長(2陣)、森内實原告団長(1陣)が揃って、長かったたたかいへ寄せられた支援に対し、お礼を述べました。

中村尚達弁護団長は、支援のお礼とともに、この集団訴訟で大きな成果をあげたが、まだ課題もあり、弁護団はこれからも被爆者問題に引き続き取り組んでいくと述べました。

司会は前田正人氏(ウラコープ組合員活動室室長)がおこない、議長には萩谷瑞夫氏(被災協監事)が選ばれました。

山田拓民事務局長がこれまでの運動を振り返り、さまざまな組織で共にたたかってきた活動の報告をおこない、今後、支援する会は構築したネットワークを活かし、活動していくことを提案しました。会計報告では柿田富美枝事務局員が2010年度(4/1~3/31)、2011年度(4/1~7/23)の決算報告をおこない、処分案を提案しました。

会計監査の2名が出席できなかったため、前田保子氏(新婦人の会県本部会長)が「監査報告」を代読しました。提案は、すべて万場一致で採択されました。

そして「原爆症認定集団訴訟を支援する全国ネットワーク」、「被爆体験者」訴訟、「高校生1万人署名」のそれぞれの団体代表へ、谷口、長尾両代表委員が寄付を手渡しました。

閉会の挨拶で長尾保子代表委員は、支援する会は解散するが、これからも核兵器廃絶という目標に向かって、被爆者を支援し、ともに活動していくことを述べ、会場から大きな拍手で閉会しました。

12時半からの懇親会は、牧山敬子運営委員、道下孝人被災協評議員による司会でおこなわれ、菅政和運営委員の乾杯の音頭で和やかに始まりました。

田中熙巳日本被団協事務局長、宮原哲朗全国弁護団事務局長、奥城和海大分県被団協会長、中島正徳長崎県原爆手帳友愛会会長、川副忠子長崎県原水禁副議長、神崎俊寛長崎県映画センター理事が挨拶し、それぞれの思いや、これまでの活動について述べました。

また、高校生1万人署名のメンバー5名は彼らの活動のテーマソングを元気良く合唱し、核兵器廃絶のため活動していく決意を述べ、暖かい拍手が贈られました。

弁護団5名はそれぞれ、これまでの取り組みについて述べたあと、原告団より感謝をこめて花束が贈呈されました。そのあと支援者より原告団へ、これまでの長い間の労をねぎらい、花束が贈呈されました。最後は全員で「青い空は」を合唱し、閉会しました。

これまでのご支援、ありがとうございました！！

亡くなられた12名の原告と柴田弁護士に哀悼の意を表します。